

グラフでみる加工食品の 生産・販売、外食等の指標



目 次

<グラフでみる生産販売統計>

1. 加工食品の生産動向
2. 食品卸売業・食品小売業
3. 外食産業
4. 食料品の物価

<今月のトピック>

- ・食品製造業をめぐる市場経済動向



1. 加工食品の生産動向

食品需給研究センターでは、食品製造業の月次生産動向について、調査・分析業務（農林水産省「食品産業動態調査」）として実施しています。

ここでは、加工食品の品目別の生産動向（増減率、速報値）についてとりあげます。

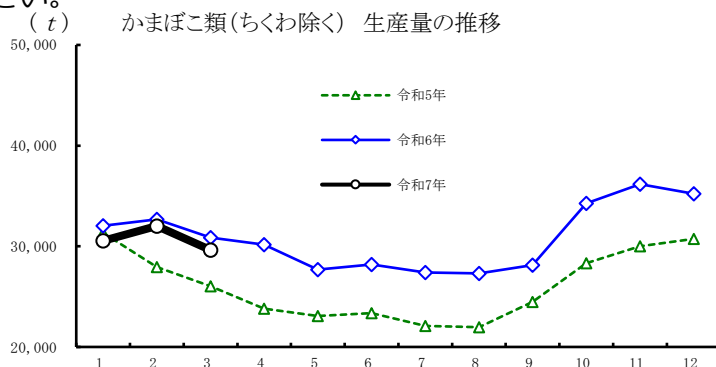
なお、詳細は、<https://www.fmrir.or.jp/stat/index.html>

「食品製造業の生産動向」をご覧ください。

○ かまぼこ類

生産量 対前年同月比

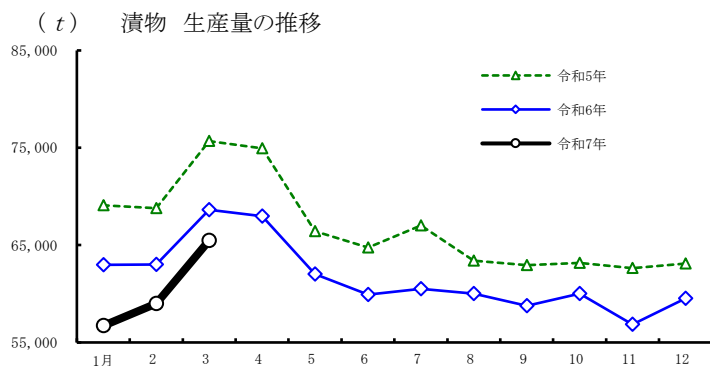
3月 4.0% 減少



○ 漬物

生産量 対前年同月比

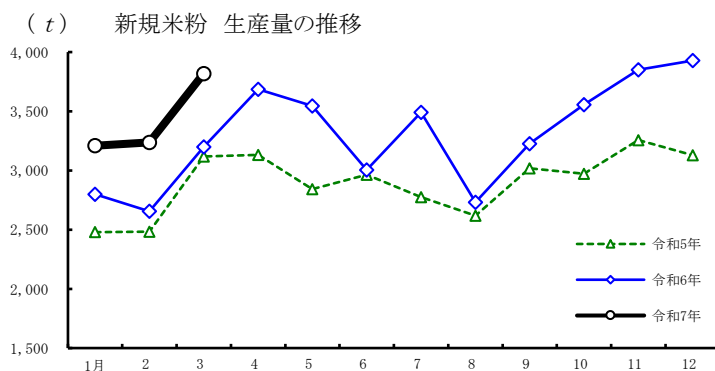
3月 4.6% 減少



○ 新規米粉

生産量 対前年同月比

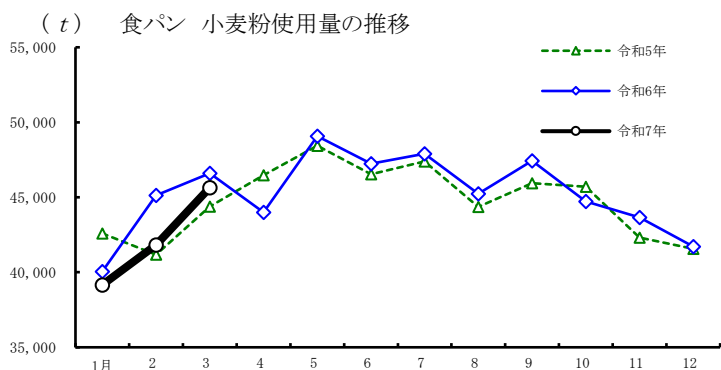
3月 19.4% 増加



○ 食パン

小麦粉使用量 対前年同月比

3月 2.1% 減少



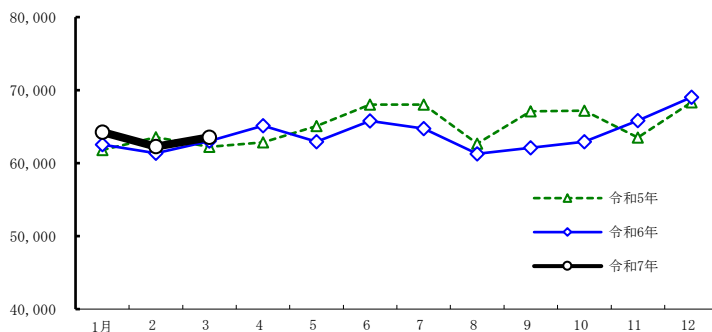
1. 加工食品の生産動向

○ 生めん類

小麦粉使用量 対前年同月比

3月 0.8% 増加

(t) 生めん類 小麦粉使用量の推移

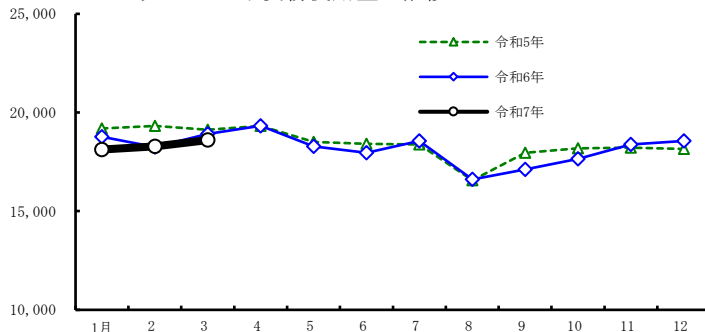


○ 即席カップめん

小麦粉使用量 対前年同月比

3月 1.7% 減少

(t) カップめん 小麦粉使用量の推移

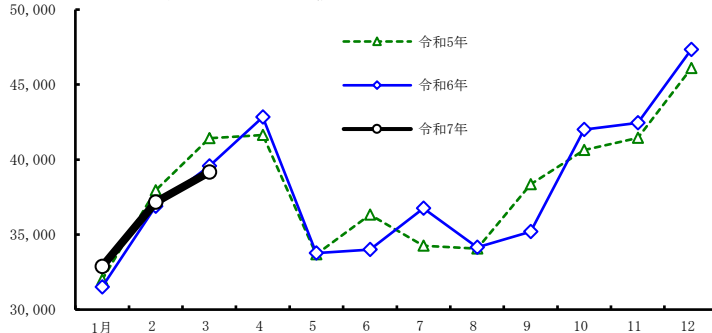


○ 味噌

生産量 対前年同月比

3月 1.0% 減少

(t) 味噌 生産量の推移

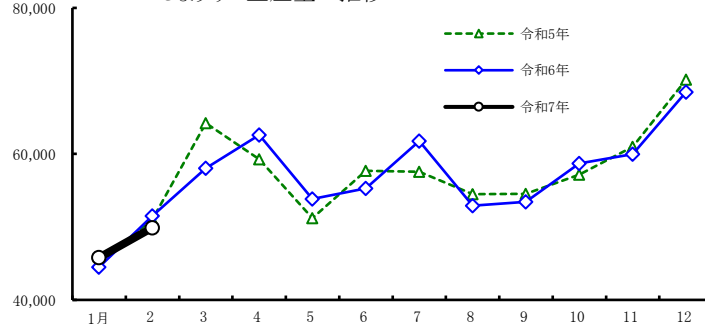


○ しょうゆ

生産量 対前年同月比

2月 3.1% 減少

(kl) しょうゆ 生産量の推移

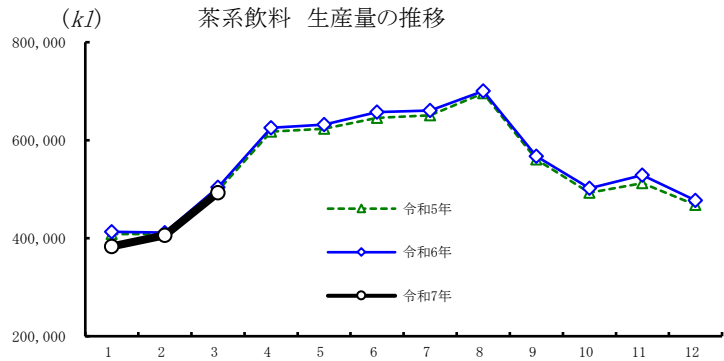


1. 加工食品の生産動向

○ 茶系飲料

生産量 対前年同月比

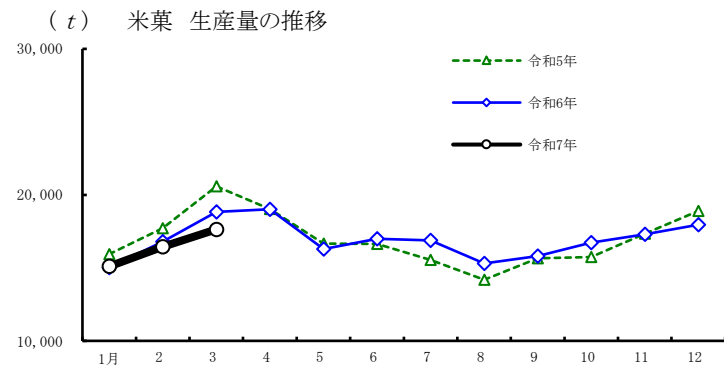
3月 2.2% 減少



○ 米菓

生産量 対前年同月比

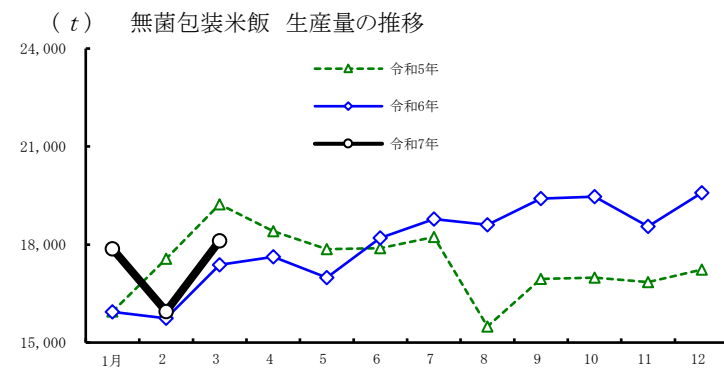
3月 6.3% 減少



○ 無菌包装米飯

生産量 対前年同月比

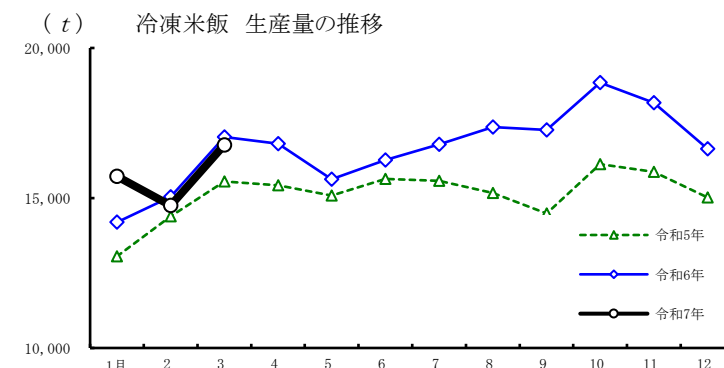
3月 4.3% 増加



○ 冷凍米飯

生産量 対前年同月比

3月 1.6% 減少



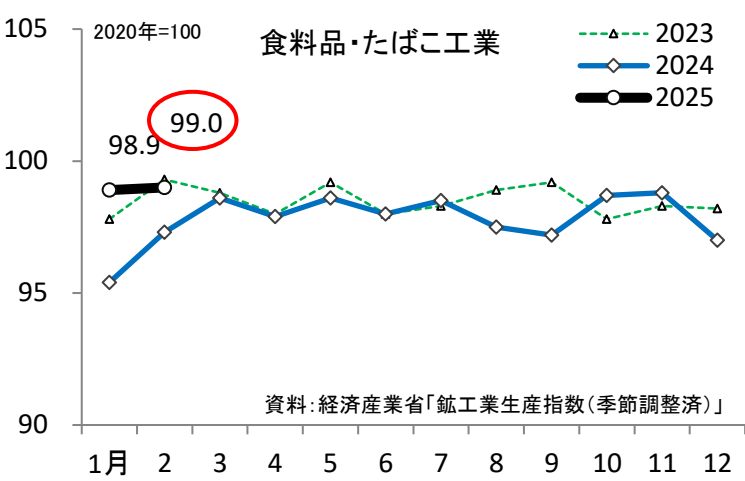
<参考> 食料品・たばこ工業の生産動向
(経済産業省「鉱工業生産指数」より)

○ 食料品・たばこ工業

生産指数 対前年同月比

2月 1.7% 上昇

※経済産業省「鉱工業生産指数」は、鉱工業製品を生産する国内の事業所における生産、出荷、在庫に係る諸活動の統計。食品製造業の月次の生産動向について、みることができます。



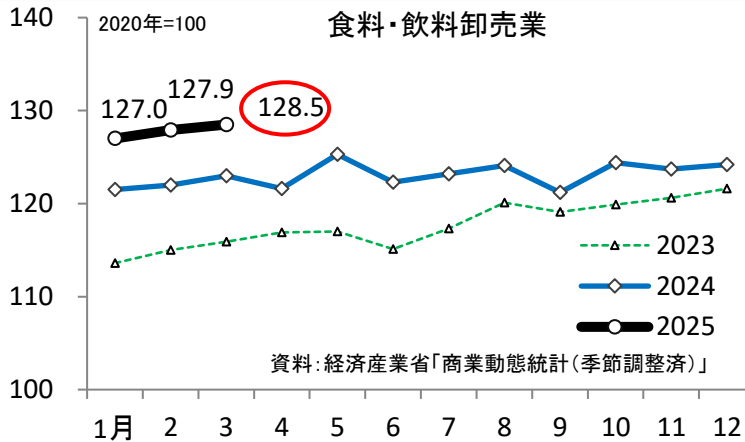
2. 食品卸売業・食品小売業

○ 食料・飲料卸売業

売上高 対前年同月比

3月 4.5% 増加

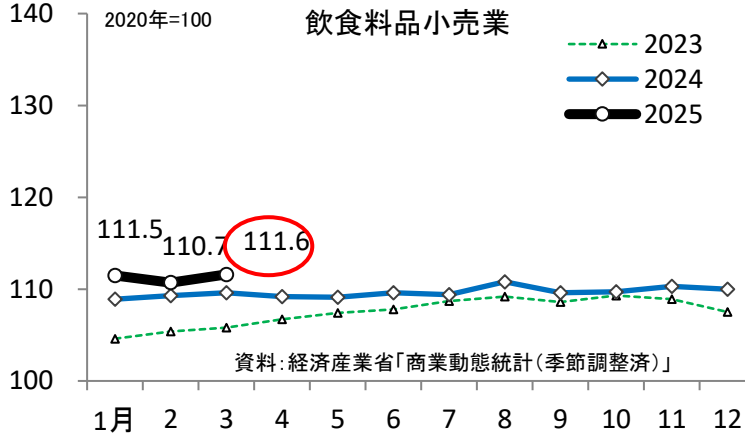
経済産業省「商業動態統計」は、全国の商業を営む事業所及び企業の販売活動の統計。具体的には、卸売業、小売業及び小売業の業態別(スーパー、コンビニエンスストア、百貨店の飲食料品都等の売上高(月次速報)について、みることができます。



○ 飲食料品小売業

売上高 対前年同月比

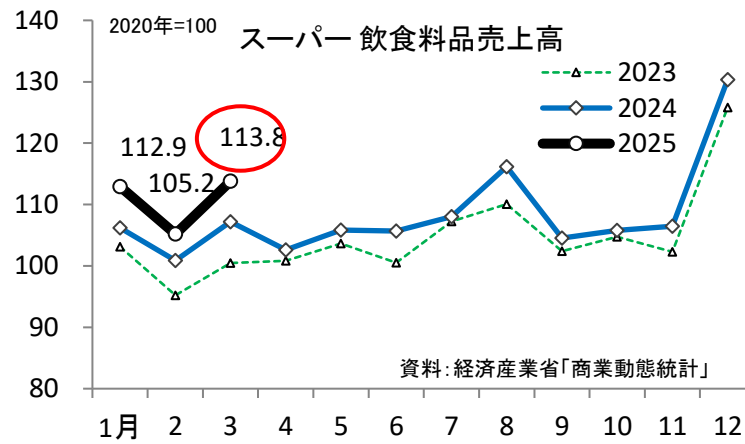
3月 1.8% 増加



○ スーパー

飲食料品売上高 対前年同月比

3月 6.2% 増加

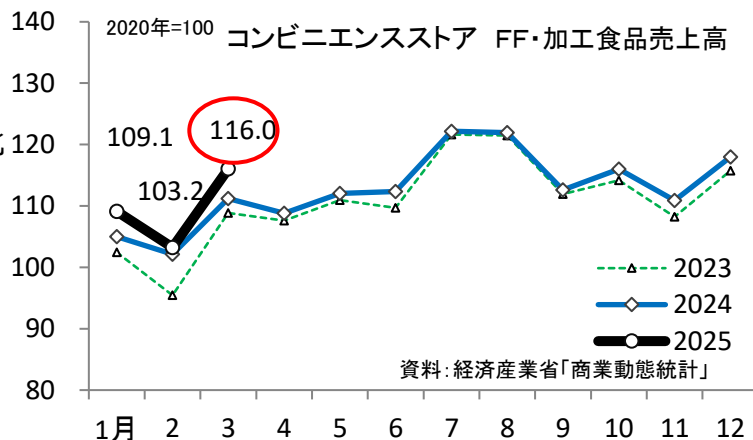


2. 食品卸売業・食品小売業

○ コンビニエンスストア

FF・加工食品売上高 対前年同月比

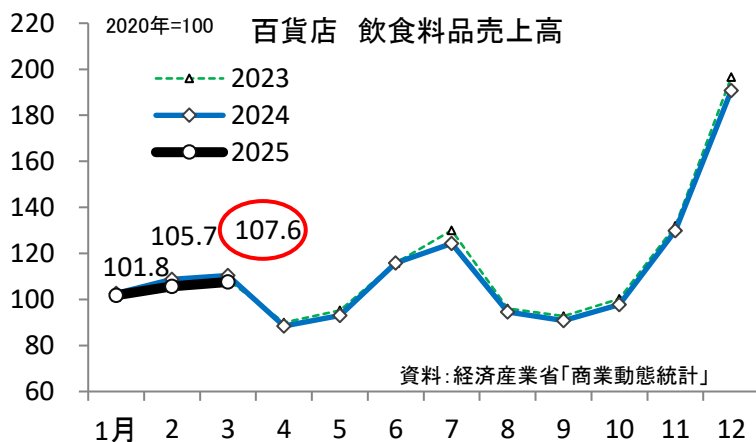
3月 4.3% 増加



○ 百貨店

飲食料品売上高 対前年同月比

3月 2.5% 減少



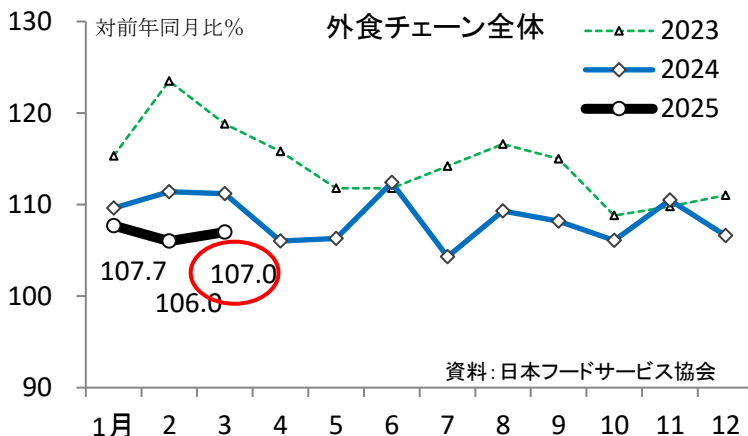
3. 外食産業

一般社団法人日本フードサービス協会の「外食産業市場動向調査」は、外食チェーン企業203社約3万9千店の売上高等についての業態別の統計。直近の売上動向がわかります。

○ 外食チェーン全体

全店売上高 対前年同月比

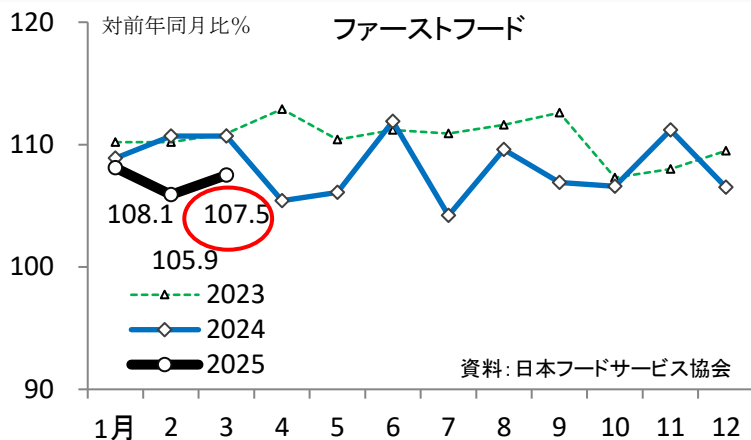
3月 7.0% 増加



3. 外食産業

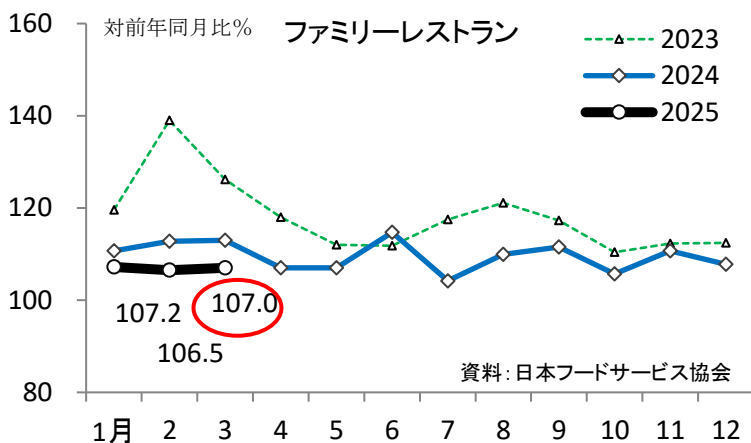
○ ファーストフード

全店売上高 対前年同月比
3月 7.5% 増加



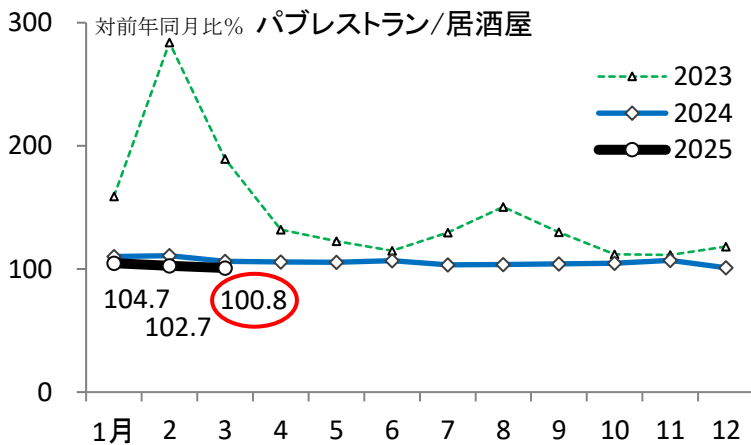
○ ファミリーレストラン

全店売上高 対前年同月比
3月 7.0% 増加



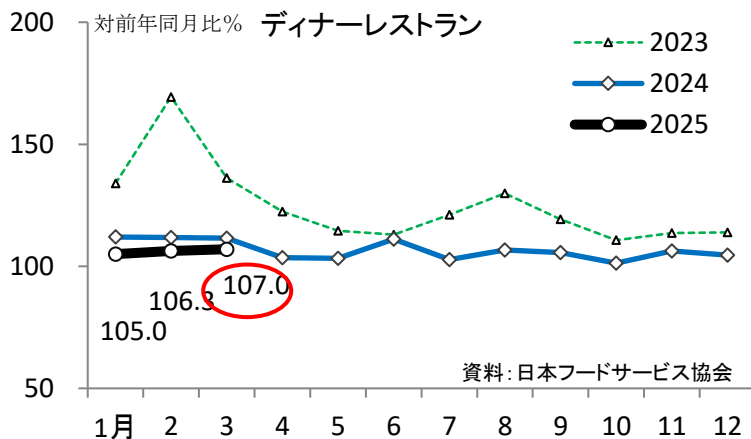
○ パブレストラン/居酒屋

全店売上高 対前年同月比
3月 0.8% 増加



○ ディナーレストラン

全店売上高 対前年同月比
1月 4.6% 増加

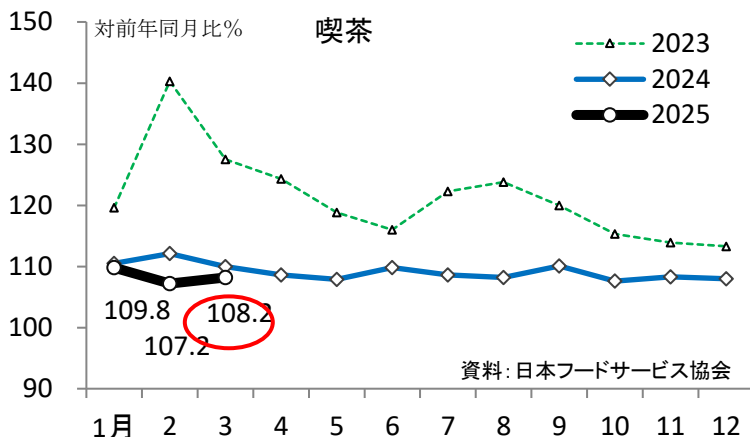


3. 外食産業

○ 喫茶

全店売上高 対前年同月比

3月 8.2% 増加



4. 食料品の物価

○ 企業物価指数

企業物価指数は、企業間で取引される品質を固定した商品（財）の価格を継続的に調査し、現在時点の価格を、基準時点（2015年）の価格を100として、指数化したもの。

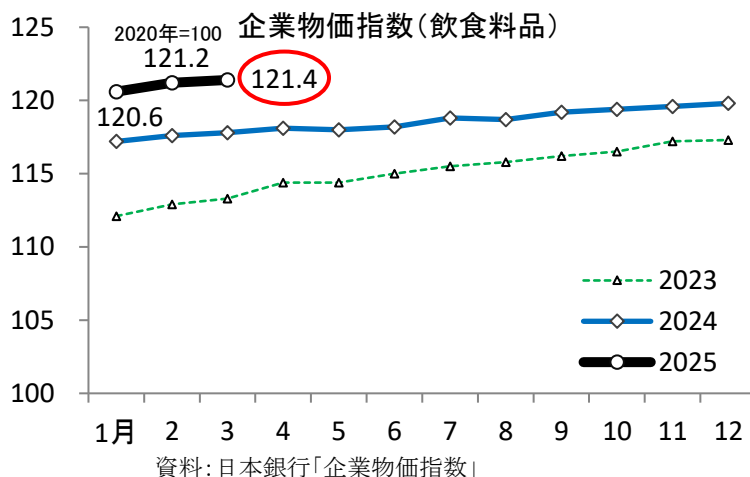
このうち、食品製造業（飲食料品）の出荷販売価格について、みることができます。

資料：日本銀行「企業物価指数」

○ 企業物価指数 （飲食料品）

飲食料品 対前年同月比

3月 3.1% 上昇



○ 消費者物価指数

消費者物価指数は、全国の世帯が購入する財及びサービスの価格変動を総合的に測定し、物価の変動を時系列的に測定するもの。

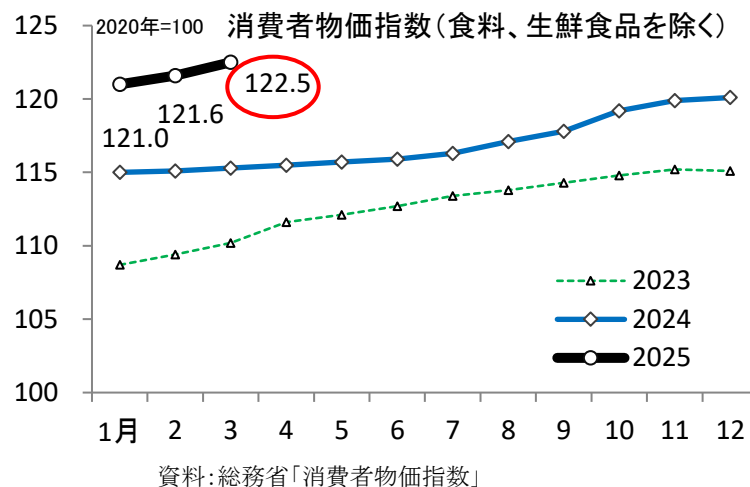
このうち、食料（生鮮食品を除く）について、みることができます。

資料：総務省「消費者物価指数」

○ 消費者物価指数 （食料（生鮮食品除く））

食料 対前年同月比

3月 6.2% 上昇

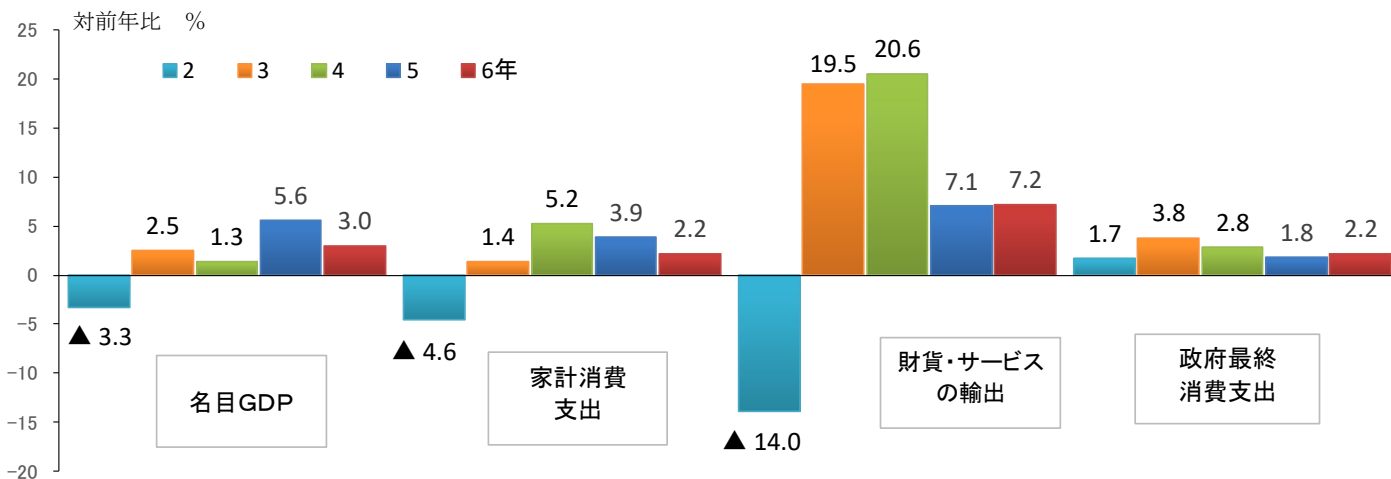


令和6年の名目GDPは対前年比でやや増加したもの、実質GDPは前年並み

令和6年の日本の名目GDP（国内総生産）は609兆4千億円で対前年比 3.0%とやや増加となった。しかし、実質GDPは対前年比0.1%と前年並みとなった。

内訳についてみると、家計消費支出は対前年比2.2%とわずかに増加、財貨・サービスの輸出は7.2%でかなりの程度増加となった。令和6年の日本経済は、令和2年の新型コロナウイルス感染症（以下、新型コロナウイルス感染症という。）パンデミックによる経済停滞から回復し、令和元年比では名目GDPは9.2%、実質GDPは0.9%となった。食品産業においては、エネルギー価格や原料価格の高騰など製造コストの価格転嫁及び小売価格上昇による消費の低迷など課題に直面している。

図1 GDP（名目）の動向

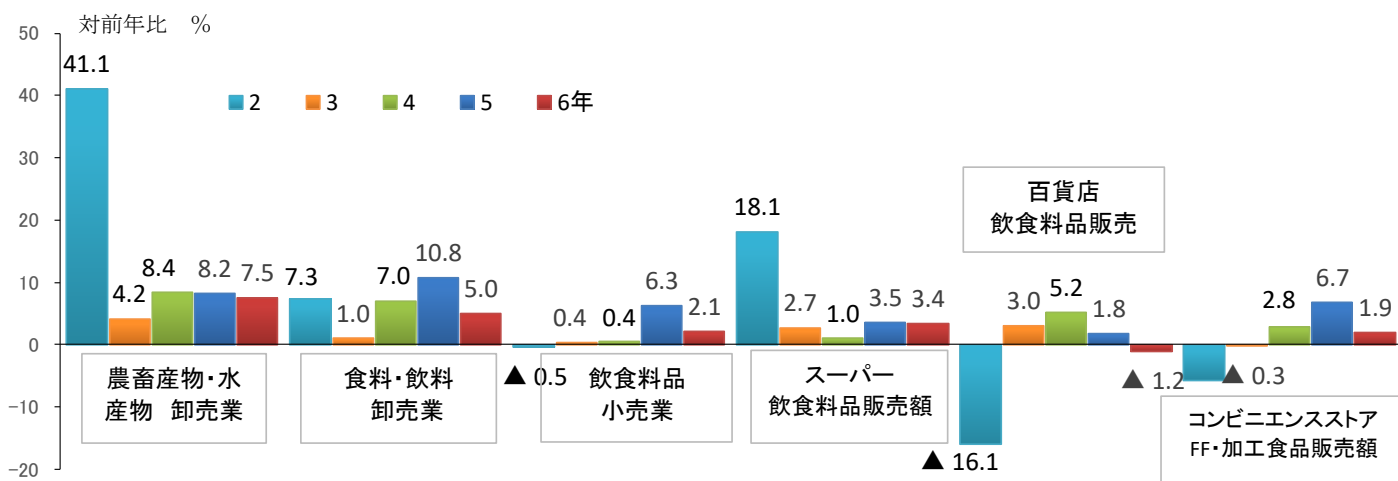


資料：内閣府「国民経済計算」

令和6年の食品小売業販売額は、対前年比でわずかに増加。スーパー、コンビニエンスストアは順調に増加

令和6年の農畜産物・水産物卸売業販売額及び食料・飲料卸売業販売額は、それぞれ対前年比 7.5%、5.0%と増加した。令和6年の飲食料品小売業販売額は、対前年比2.1%とわずかに増加し、コロナ禍前の令和元年と比べてかなりの程度の増加となった。うち、スーパーの飲食料品販売額は対前年比 3.4%とやや増加となったが、令和元年と比べて大幅な増加でコロナ禍の巣ごもり消費以降も堅調となっている。一方、百貨店の飲食料品販売額は、対前年比▲1.2%とわずかに減少となった。コンビニエンスストアのFF・加工食品販売額は、対前年比1.9%とわずかに増加し、令和元年に比べてやや増加となった。

図2 食品卸売業・食品小売業の販売動向



資料：経済産業省「商業動態統計」

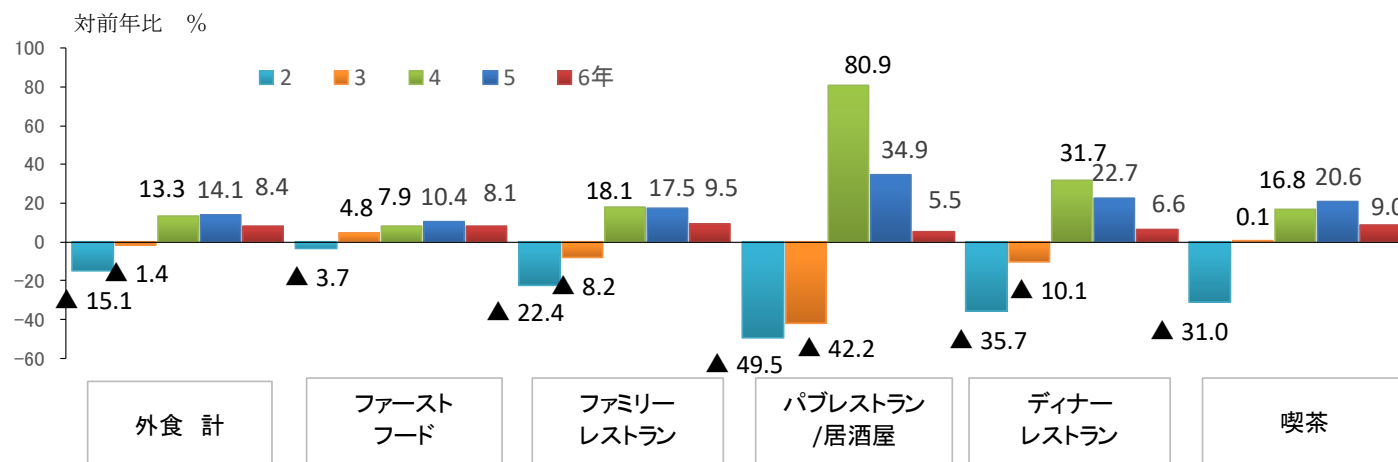
注：令和6年は速報値。

令和6年の外食チェーン売上高は、対前年比でかなりの程度増加

一般社団法人日本フードサービス協会によれば、令和6年の外食チェーン全体の売上高は、対前年比8.4%とかなりの程度増加となった。また、令和2年の新型コロナウイルス感染症パンデミックの打撃から、回復しつつある。

業態別にみると、ファーストフードは、対前年比8.1%とかなりの程度増加し、令和元年比で大幅な増加となった。ファミリーレストランは、対前年比9.5%とかなりの程度増加したものの、令和元年の水準に回復しつつある。パブレストラン／居酒屋は、対前年比5.5%とやや増加したものの、令和元年の水準には回復していない。ディナーレストランは、対前年比6.6%とかなりの程度増加し、令和元年の水準に回復しつつある。喫茶は、対前年比9.0%とかなりの程度増加し、令和元年の水準に回復しつつある。

図3 外食チェーンの売上動向



資料：一般社団法人日本フードサービス協会「外食産業市場動向調査」